

令和8年度第1回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

標記委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

1 日程及び場所

令和8年7月1日（水）

近畿中国森林管理局 4階 大会議室A

2 議題

- （1）近畿中国局管内の木材需給動向について
- （2）国有林材供給調整の必要性について
- （3）その他

3 議事概要

《検討結果》

国産丸太の出材量は、全体として順調であるが、梅雨期を迎え、減少する傾向が見られる。

新設住宅着工戸数は、近畿・中国地方で3月・4月と2ヶ月連続で減少するなど低調で推移している。

プレカット工場の稼働は、石油関連の原材料の不足感や住宅着工の遅れがみられることなどから、先行きは不透明な状況となっている。

製材については、同様に住宅着工が低調な一方、丸太の出材量が順調であった影響から、特にヒノキの原木価格が中国地方を中心に大きく落ち込んでいる。スギは外材の代替需要による引き合いが強まり堅調な動きがみられる。

合板については、スギは順調であるものの、住宅着工の減少に伴う合板メーカーの減産が影響し、ヒノキの荷動きは非常に低調となっており、合板向けヒノキの原木価格は下げ止まっている。

木材チップの需要は旺盛だが、燃料用・製紙用ともに丸太の出材量が順調であり、合板メーカーの減産の影響によりB材もチップ用として消費され、需給のひっ迫感はなくなっている。

以上、チップ用材の需要は旺盛ではあるものの製材・合板ともにヒノキの製品需要の低迷が顕著となっており、ヒノキ丸太については、先行きは不透明である。このことから、ヒノキの原木価格の下落が顕著な地域においては、ヒノキ丸太の供給調整を弾力的に対応できるようにするため、国有林において搬出期限が迫っている売買契約済みのヒノキを含む立木販売物件について、地域の実情を踏まえ限定的に搬出期間の延長を行うことが望ましい。

なお、国有林においては、地域における木材需要動向、民有林材の出材状況等について注視しつつ、国有林からの素材並びに立木の安定供給・販売に努めることとし、引き続き、地域の実情に即した供給調整のあり方を検討していく。

〈主な情報、意見等について〉

○木材の需給動向について

- ・ 島根県内の木材供給量は、県内原木市場や合板工場での消費量等から推計すると、対前年で1割程度増えている状況。原木市場の4月の取扱量については、スギ・ヒノキとも出材量が増加しており、対前年同月比で大体2割強増加。
- ・ 4月の原木平均価格は、スギ4m14cm上が13,700円で一年前と比べると500円程度下がっているが、昨年の夏以降からほぼ横ばいで推移。一方でヒノキは、4月が17,500円で一年前と比べると3,000円以上の大きな下落が見られる。特にこの3月、4月で2,000円程度下がっており、岡山県のヒノキ価格が下がった影響が出ているように感じている。
- ・ 島根県内の1月から4月の木材住宅着工戸数は月ごとに増減はあるものの、前年度並みで推移している。ただし、持家、木造住宅については、前年同期の8割程度ということで大きく落ち込んでいる。
- ・ 一昨年来、島根県内の発電所において、燃料用チップ不足のため、発電所の稼働率が低下しているという状況が続いていたが、この1月から4月までの供給については、前年度比1割増で発電稼働に必要な燃料の確保は最低限できている。
- ・ 岡山県内のヒノキ丸太について、昨年1年間は安定した価格であったが、今年の2月から下落し始め、今年になって3割近く、値段にして6,000円下がった。柱材、土台ともに17,000円程度というのが現状で、平均価格にしても14,000円程度というような状況。スギに関しては、10,000円前後の保合状態。岡山県が特にそういった状況だが、近隣や全国的に見ると、そこまで下落はあまりないようには見受けられる。
- ・ 安値による原木出材量の減少で価格の底打ち感がある。こうした影響を受け、スギ材やチップ材へ転換もしている事業者もある。
- ・ 岡山県内のバイオマス向けチップ原料の需要は旺盛と感じている。
- ・ 岡山県の新見地域では、ヒノキ価格の下落を受け、6月に入り出材量に2割程度の減少傾向が見て取れる。全量売れており誰も買ってくれないという状況までにはなっていない。柱角のサイズが非常に厳しい印象で、ラミナ需要よりも柱需要の方は特に厳しいと認識している。
- ・ 6月中下旬になって、一度の市ごとに500円ずつ回復傾向で、今は17,000円が、15cm16cm柱角からの平均価格になっている。
- ・ ヒノキの原木価格は年末に向けてこれ以上下がっていくのではと思っている。採算が合う・合わないもあり難しい状況ではあるが、経済が動き出して、来年・再来年に誰が山から木を出すのかというようなところに直面していくのが怖いと思っているので、自社なりに努力しながら少しでも木を動かしていきたい。
- ・ 針葉樹合板について、ナフサショックが影響してか、4月頃に流通業者が大量に発注を出しプレカット工場の方に製品が入りにくくなるという噂が流れた。当社の取引先に連絡をして4月に発注したところ、「実績以上には難しいが今までの実績部分は確保する」とのことであった。

5月になり「注文は受けるけれども納期が固まらない」ということだったが、実際にはほとんど納期通りに入ってきた。6月になっても同様に「納期が固まらない」との話ではあったが納期通りには入ってきた。7月以降は「もう大丈夫」との返事があり安心している。集成材も接着剤を使うため、同じような状況になるかと思ったが、接着剤の種類が違う等の理由で、在庫切れや納期が遅くなるという話にはならず、現時点でもなっていない。

- ・ 針葉樹合板の価格については、もともと上がると言われていた中で、ナフサショックもあり、5月に200円、6月で100円程度上がった。7月は多少落ち着き、平均して50円アップとなっている。米松も3月4月と二段階上がったが、今は落ち着いているような状態。
- ・ 中東等情勢により重機の作動油不足の話があちこちで聞かれるが、北広島工場では周辺の需要が低迷していることや、周辺業者との協力関係の深まりもあり、以前より計画に沿った集材ができている。
- ・ 3月からヒノキが暴落したことによって、伐採がスギに移っているということもあり、逆にスギは外材の代替としての需要が増えているが、不足感はない。
- ・ ヒノキの原木価格の下落は、その前段階で上がりすぎていた面もあるかと思っている。
- ・ 製材品について、米材は円安等もあって採算が合わず3月に1度値上げを表明したが、その直後に中東情勢が勃発し、原油が倍になった。船の燃料であるバンカーオイルも倍になり、月に億単位でコストアップとなったため、2回目の緊急値上げを実施した。原油価格は下がってきておりいずれは落ち着くかと期待しているが、傭船料そのものは高止まりしたままであり、インフレも日本よりアメリカがひどいので、ドルベースの原木価格は上昇傾向である。一方、スギ集成柱とスギ積層間柱の販売は好調である。
- ・ 住宅関係についても、確かに動きが悪いという話が出ている。ナフサショックで塩ビ管、断熱材がないなど原因がある。大手の工務店はある程度実績配分で間に合わせてもらい、中小の工務店へはなかなか回ってこないという状況もあったが、最近は少し遅れて納品される状況なので、6月以降回復してきているように感じる。
- ・ 首都圏はマンションが非常に高くなっているため、住宅取得者がマンションから木造に切り替えるといったこともあるようで、関東から中京は他地域と違う動きをしていると感じている。
- ・ 接着剤メーカーから4月～6月にかけて供給制限すると一方的な通告があり、実績の7割、7月以降はわからないという内容であった。当社は接着剤を集めるために交渉や他の入手ルートなど努力した結果、ほぼ実績通り生産できた。現状、接着剤価格は50%アップで安くなることはないが、量の確保は出来るだろうといった状況。
- ・ 合板価格は、3月に1,100円へ値上げすると合板メーカーが動き出した。今回の接着剤不足で減産になるという懸念が影響して、6月1,400円、7月1,450円という相場。
- ・ 仮需で倉庫は満杯になったが、住宅着工が低いので在庫がはけない。合板メーカーは需給バランスを考えないと、値段が下がってしまう。
- ・ 合板用丸太は、スギで小幅値上げ、ヒノキ・カラマツは横ばいで推移している。
- ・ ヒノキの出材は原木価格が下落する中でも、急に作業は止められないということで、3月4

月に出材があったが、5月6月になっても出材が増えてきている状態。製品が動かない中で、製材所ももう買えないという形が続いており、特に昨年1年間原木が非常に高かったので、本当に厳しい状態が続いている。

- ・ 住宅の着工はいろいろな資材の不足感が見られる中で、住宅を買う方も「今買うべきではない」というような雰囲気であり、なかなか家が建たないということが続いている。木材業界全体に雰囲気として物が動かないというような形の不安視から、物を持ってない、在庫も持てない、どこも儲かっていないので余裕がないと感じている。
- ・ 三重のスギが顕著な下落との説明資料があったが、当社の原木市場の認識では、スギも確かに下がってはいるがそこまで大きな下落ではなく、どちらかというとヒノキの下落が大きい。スギが飛び抜けて弱いという認識は持っておらず、むしろスギは比較的堅調という認識。
- ・ 名古屋の製品市場では、中東情勢が始まった2月末から4月にかけて、合板に限らずあらゆる資材で供給不安のアナウンスは来ていたものの、木材は動いていた。ただ、6月頃から実需が薄くなったということで、荷物の動きが悪くなってきたと感じている。7月以降にどうなるのかが見えないので、不安に思いながら製材品の市況を見ている。
- ・ 価格帯としては、一言で言うとヒノキは少し弱い、製材品の市場で目立って暴落までしているとは思っていない。スギ材は大手ハウスメーカーや大手ビルダーなど、どうしても使う必要があるところは、対外国産材と比較するとまだ割安なため、値上げや値戻しは一部通っている。ただ、どんどん上がっているわけではない。運送賃、接着剤、梱包資材などいろんな副資材の値上げが製材メーカーのダメージになっているのも現実で、コストアップ分の転嫁ができているというぐらいの感覚。
- ・ 原木相場は県境で変わるものではなく、また時間差で他所にも飛び火する。供給調整の具体的な実践にあたっては柔軟な対応をお願いしたい。

○今後の見通し

- ・ 島根県の近隣県で新たな発電所が夏以降稼働するといった話も聞いているので、今後の原料確保の動向については注視が必要だと思っている。
- ・ 昨年、需給ひっ迫の状態が続いて、価格の安定も続いたということだが、供給量が抑えられることによって、価格も若干上向く可能性があると思っている。
- ・ 住宅着工について、マンションほどではないが、木造住宅も価格が非常に上がっており、金利も上昇しているため、今後の着工は非常に心配している。一方で非住宅は合板等が間に合い始めたこともあり、遅れていた工事が受注も含めて進んでいるようで期待している。
- ・ 合板メーカーが接着剤の目処が立ち、生産抑制を緩和したこと、一部商社が中国製の合板を仕入れたり、自社のロシア産の合板に切り替えたりということもあり、不足の話は聞かれなくなったので、今後は大丈夫だと思っている。
- ・ 燃料向けチップは、岡山県のバイオマス発電が再開されたこと、山口県の大型バイオマス発

電所の稼働が開始したことに加え、今後、広島県・鳥取県で新規稼働が予定されているため、不足するのではないかという先行き不安が強まっている。

- ・ 製材所も本当に厳しい状態が続いている。そのうえ、資材費や燃料費も上がる中で価格転嫁できないような状態。製品も売れず、値下げに走っているような状態になっている。そんな中で、製材したくてもできない状態が続いているのが現状で、7月、8月ぐらいまではこれが続くのかなと不安視をしている。
- ・ 例年、この春先からは伐旬が悪くなるため、自然に原木の出材は減ってくる時期になるが、今年はそこに輪をかけて相場下落という問題があるため、これからどれだけ減るのが見えない。
- ・ 外国人雇用を拡大して工場稼働を300日にしているメーカーがあるらしい。合板業界は全体的に2割ぐらい供給過剰と言われ、それぞれ我慢しながら、減産してやっているところに、安値で物を捌くと相場がまた落ちてしまう。また、ロシアと中国の合板の輸入が増えているのも心配だ。

○その他

- ・ 岡山県では、作業形態が持山作業から委託作業中心になってきており、請負事業へシフトする事業体も多く、整備公社の作業委託やこれまで低調であった森林整備事業などへの入札案件に対しての応札も増えている。
- ・ 国有林から出るシステム販売の原材料は未利用材であるため、A・B材のスギより高値で落札されているような状況。
- ・ 再生林の支障となる林地残材の除去ができるという点も含め、木質バイオマス発電の燃料チップの需要は木材価格の下支えに大きな役割があると思っている。
- ・ 中東情勢の影響でエンジンオイル、作動油といった高性能連動機械の血液になるものが入手困難な状況で、排ガス浄化のためのアドブルーを入れるための容器やカートリッジグリスの容器が品不足に陥っている。政府は問題ないと発信しているが、現場側では非常に困っているのが実際。林業の場合、木材伐採・搬出・輸送という作業ですが、1㎡当たり約10リットルの軽油を使用する。軽油が高騰しており、免税軽油の税額も下がったということで、この恩恵も半減した。実際先ほどの売り上げが3割下がって経費が5割増しになったような状況。
- ・ 素材生産業者というのは、他産業の平均に比べて十倍の労働災害のリスクがある。先日、岡山県の国有林内で25歳の若い人が亡くなった。安全教育や機械化等を充実させないと災害を減少することが非常に難しい。当然だが、機械化して人が危険な場所に入らなくても済むような状態を作るためには多くの費用がかかる。林業従事者は、頭はヘルメットを付け、防護服履き、防振手袋をして、安全ブーツを履くが1つ5万円ぐらいする。鎧を着て作業しなくてはならないような現場に人は集まるのかということを考えてほしい。今後とも業界として丸太が必要、山は豊富にある、それを誰がやるのだと言った時にフィジカルAIができて機械化ができればいいがそれも難しい状況の中で、今担ってくれている人をなんとか確保し、安定した賃金や福利

厚生が提供できるような体制にするためには木材の安定価格というのは絶対条件だと思っている。

- ・ 林業ができる・したいような従事者をどうやって作っていくかということが、今後、我々の素材生産業者の考えていかないといけないところ。当社としては、会社を立ち上げて2年から5年までの若い素材生産業者の育成に力を入れている。今後は従事者をどのように確保するか、来年度、再来年度を向けてどうしていくかを真剣に考えているところ。
- ・ 国有林の立木販売で不落が多い件について、広島県の場合アクセスが一番のネックで、伐採の困難性や収支が合わないことから、林業事業体も入札を見合わせるケースが多いようである。このままでは需要があっても伐採されないままとなってしまうので、何らかの対策ができないかと思っている。
- ・ ウッドショックの際に、中国から合板がたくさん入ってきたが、半年経過後にJAS違反が判明した。これがまた繰り返されるようなことがあれば、JAS製品の品質を問われるので、JAS規格の厳格な運用を改めてお願いしたい。
- ・ 中国情勢を懸念している。中国国内で植林がかなり進んでおり、去年は九州の総面積ほどの600万haの植林がされている。早生樹だと15年程度で伐期を迎えるので、この木が5年から10年先には伐られる。この木材をどこに向けていくのかとなったときに日本が最初にターゲットになるのではと考えている。住宅の価格が上がる、資材が上がる、そういった中で木材を使いましょうという機運は高まると思うので、国産材の価値を底上げしながらやっていくことで、山に還元でき、山の人たちが安全で安心して仕事ができるようになると思っている。
- ・ 森林林業基本計画の中でKPIというものが初めて導入され、5年後に想定される目標値として設定・明記している。この目標については、1年ごとにどうなったかを林野庁で情報を集め、林政審議会に報告し確認していくことになっている。林野庁の皆様の様々な検討の結果として、KPIとしてでてきているもので、これが森林、森林業政策における目標として掲げられている。